

---

# 耳無し幽靈

悲劇のM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

耳無し幽靈

### 【Zコード】

Z8124E

### 【作者名】

悲劇のM

### 【あらすじ】

ツンデ靈です。あるところでタメになる批評をたくさん貰つたにも関わらずあんまりクリアされてません。俺の実力じゃ直せません。ここで謝ります。ごめんなさい。

ホラー雑誌編集者の僕は、取材の為、夜のある寺院に来ていた。噂では、この寺院には耳の無い女の幽霊が出るそうだ。僕は半信半疑だったが、編集長の言つことは絶対。しぶしぶ自動車で3時間かけてここに到着した。

車を止め、寺院の本堂へと向かつた。

そこは、いたるところが廃れていて、天井には蜘蛛の巣が張り巡らされていた。人なんているはずなく、土足で上がりこんだ。

力バンから小型録音機器を取り出して、それを起動させた。6時間の録音が可能で、どんな小さい音でもばっちり録音する高性能のものだ。

デジタル式の発光腕時計を覗く。液晶画面は夜の11時を示していた。小さく置んだ寝袋を力バンから取り出し、それを広げた。夏といつても夜は冷える。方々からの隙間風は、寝冷えさせるのに十分な冷気をはらんでいる。

寝袋にもぐりこむと、重い瞼を閉じた。

夜中、何かの物音に目が覚めた。途端、全身から冷や汗が噴き出た。半端ではない量。この汗はどこから出でてくるのか、なんて考えてる間に、寝ている僕の枕元に白い着物を着た青白い女が立つていた。

辺りは暗闇。にもかかわらず、その女性は僕の目にはっきりと映つた。目鼻立ち整つていて、艶やかな黒髪は後頭部で花かんざしに止められている。なかなかの美女だった。

よくみると、こめかみのすぐ傍に付いているはずの器官が無かつた。間違いない、彼女が耳の無い女の靈だ。

だが、僕は驚きの光景を目にする。彼女は泣いていた。両目から流れる彼女の涙は、木製の床に染みをつくった。

「どうして、泣いてるの」

「気づけば、彼女に対する恐怖心は無くなっていた。故にそんなことを聞く余裕が出来たのかもしれない。

「あなたも、逃げるんでしょ」

「どうしたの？」

涙を止めずに、彼女は続けた。

「あなたのようすに噂を聞いてここに来る人は今まで何人かいだ。けど、耳の無い私の姿を見たらみんなが逃げ出すの……」

彼女のすすり泣く声が、静かな本堂にこだまする。僕は寝袋から体を出し、立ち上がった。

「こうすれば、わからないよ」

僕は彼女の髪を後ろで束ねている花かんざしを外した。たちまち彼女の黒髪は溶け、顔の線を隠した。それは普通に耳がある女性と変わらない映えとなつた。

彼女は一瞬だけ頬を緩め、直後に怒りに任せたような口調で言った。

「よ、余計なお世話よ！　だいたいね、私は怖がって逃げる人を見て楽しんでたんだから。さつきのもただの嘘泣きよ」

「違う」

僕ははつきりとそう言つた。そして続ける。

「さつきの君は、本当に泣いていた。孤独の涙だった」

「違うつていつてるでしょ」

「違わないよ。君が望むなら、僕はずっと君のそばにいてあげたつて構わないから、もう泣かないで」

僕は彼女の目元に残つていた涙を指で拭いた。すると、彼女はまた泣き出した。泣きながら、僕の胸元に飛び込んだ。

僕は優しく彼女を抱き返した。幽霊なのに、体温が伝わってくる。彼女は僕の胸の中で言葉を紡いだ。

「バカ……バカバカバカ……本当は、ずっと寂しかったんだから」

(後書き)

いま作者のベッドで寝息を立てているのがその時の彼女です（妄想）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8124e/>

---

耳無し幽霊

2011年1月15日02時51分発行